

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		きらり中庄					公表日	令和 7年 3月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	9	1つの部屋で、食事、午睡、活動は難しい。個別でのお勉強なども環境的に適切でないことが多い。 1つの部屋で全ての活動を行うことが難しく、同一敷地内の他の部屋などを利用調整し使用するなどの工夫が必要。 整理整頓を行い、なるべく療育スペースが、広くとれるようにしている。バギーや車椅子が大きいのでどうしても物を廊下に出さざるをえないため廊下に物が多くなってしまう。 バギーを使用している利用児が多いため、活動や食事など狭く感じることがある。 適宜、マットを剥がしている。 お昼寝や静養を一部屋でしないといけない	限られたスペースの中で、活動場所や動線の確保などお子さんの活動や移動しやすいための環境を職員が工夫・改善しながら取り組んでいます。 ロールスクリーン等も設置しつつの部屋を分けて視覚的や環境の変化もつけるようにしてみています。 同一建物、敷地内の資源（スヌーズレン、ログハウス等）調整し活用しお子さんが様々な体験・経験ができるように工夫していきます。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0				
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	寝たきりの子が多く、床からバギーへの移乗は、職員の身体への負担が大きい。ぎっくり腰になっている職員もいる。ベッドの活用もしたいが、狭いため難しい。 一部屋が主な生活スペースのため、必要な機器を配置しても児の移動や活動に支障が生じないためにレイアウトの変更などを都度見直している。 環境面での制限はあるが、工夫して設定している	職員の働く環境の改善、腰痛防止の観点からもベッドの導入も検討する。 設置場所なども踏まえ、お子さんの活動等のスペースに支障のないレイアウトを検討していきます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	5	活動や児の必要としている車椅子や機器等の十分な広さの確保が工夫が今後も必要。 広さがたりない。活動、食事、午睡すべてが同じスペースであるため難しい 医療ケアが必要なお子さんが通うことを考えると清潔は十分でないと感じる	活動、食事などを同一の部屋で行うため、使用前後には清掃、消毒なども行き衛生面に気をつけています。他の部屋の活用も検討・調整し充分なスペースの確保および清潔面の保持に努めています。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	7	ロールスクリーンを1月に設置し、空間を分けることができる工夫は行っているが、充分な広さの確保は出来ていないと思われる。 分散部屋がない そのようになるよう工夫してはいるが、十分ではないため	同一建物・敷地の部屋の活用や、限られたスペースを仕切ることで有効なスペースを作りだすなど、個別・集団で活動する内容や目的に合わせて工夫を行っていきます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	4	改善や目標と関わりが各職員によってその場での判断による傾向はある。話し合いの場が少ない。	サービス提供後の時間などを有効活用し、情報共有、改善点を話し合う時間を計画的に設けていきます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2		目標管理面談や日々のコミュニケーションの中で職員の気づきや思いを汲み取り、全体で話し合う、改善すべき点に取り組んでいきます。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	0				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	専門技術などを学ぶ機会が少ない	医療的ケア、活動面について年間で学ぶ機会を設けるだけでなく、自己研鑽にも取り組んでいけるようにする。		

適切な支援の提供 関	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1		支援プログラムに基づいて活動計画やお子さんの個別支援計画に反映し、支援を行っていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	1	アセスメントの弱さがあると考える	普段の姿や成長に合わせて評価を行い、多職種の視点も踏まえ、個別支援計画を作成していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	努力していると思う	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	目標は共有しているが、手段など細かいことは難しく、日課の中でできている姿を追う、記録するになっている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	3	標準化されたツールはない	よりお子さんの状態、様子などを捉えることが出来るツールを模索しており、外部研修等での情報を共有している。既存に捉われず支援の向上を目指して支援に必要なものも整えていきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	具体的ではないため	支援計画作成において、お子さんの状態を踏まえ目標設定、手立て・方法を分かりやすく明示・説明して支援を行っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	4	チームと言うよりかは主觀が強いように感じる 保育士をベースに作業療法士等で計画の話し合いをしている。必要に応じて看護師も参加。	重症心身障害のあるお子さんの支援のため、保育だけでなく、機能訓練指導員、看護職員のそれぞれの視点が必要になります。お子さんの最善の利益を追求するために、意見を出し合いで計画作成、支援を行っていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	季節を考慮し、イベントに参加する機会を大切にしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	コミュニケーションの難しさやケア度の高さはあっても、集団参加を促せるように関わりができる	お子さんの成長や障害による特性なども考慮し、集団活動と個別活動のバランスをとって支援を行っていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	時間の問題から話し合いが十分に行えないが、工夫をしている	サービス提供後の時間の有効活用を今後も検討し、支援の質の向上に努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	連絡帳には記載するが支援に関する記録は少ないように感じる 連絡帳の記録はあるが、経過を振り返りにくさはある。21と同じく工夫しているが…難しさがある	保護者等に向けての様子をお伝えする部分と、支援に必要な支援者間で情報共有する部分を明確にしながら、支援の展開や振り返りを行っていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	3	プラン見直し時になるため、期間中のモニタリングができるとなお良い	支援計画のモニタリング時期だけでなく、お子さんの成長に合わせて方法の変更や活動内容が変わったタイミングでも状況を確認していきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	意識している。さらに機会を増やしていく	生活の基盤となる家庭や通園先での生活の様子を知ることは不可欠である。「移行支援」の観点も重要になってきているため、園訪問、情報共有などを積極的に行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0		

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	(28~30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)			そのような機会を希望する	センターの中核機能など、専門的な視点や助言を積極的に受けながら、支援者間だけでなく様々な視点からお子さんや家庭の支援を考えて実施していく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	7		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	6	頻度を増やしたい	地域にある園などに出向き、支援者が行き来するなどの機会から、お子さん同士の交流に繋がる取り組みを行っていく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0		
保 護 者 へ の 説 明 等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	相談を世間話のような中でその場で返事する場面もあり、チームで話し合うなども行えるとより良いかと	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	情報や書類の整理	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか。	7	2		地域の方にも知っていただく機会など、職員一人ひとりが意識して取り組んでいきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	2		事業継続計画も作成するだけではなく、実際に使えるものにすることや、最新の災害リスクの情報に更新し、対応できるようにしていきます。

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1	形式的に実施。個人の意識による。	毎月の安全点検を継続して行うだけでなく、日々のなかでの気づき力を高め、発生を未然に防ぐリスクマネジメントを行っていきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	2		災害を想定した避難訓練などは事前事後の報告などを行っている。家庭にて災害に遭遇した際の必要な備えなどの取り組みを継続していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	2	今年度は少なく感じる報告も含め、話し合いは最近ない印象です。形式的に記録されているのでは?	発生した内容の再発防止や経過の確認だけでなく、気づきを増やし未然に防ぐ取り組みも同時に進めていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0		